

子どもの事故はちょっとした気配りで防げます。
事故を防ぐためのポイントをまとめてみました。

1. 子どもが外遊びをするとき、つまずきやすいものや段差がないか注意しましょう。

子どもは体のわりに頭が大きく重心が高いため、バランスを崩してよく転倒します。走っていて足がもつれたり、スクーター、三輪車に乗っていて石や段差で転倒したりします。まだまだ上手に手を出すことができません、顔面からアスファルトやコンクリートに転倒すると重傷な事故になる場合があります。



つまずきそうな段差がないか確認して遊ばせましょう。
足のサイズにあった靴をはいて遊ばせましょう。

2. 浴室の床やタイルは滑りにくいですか。

浴室のタイルは水や石鹸で滑りやすく、転倒すると桶や浴槽、ドアのサンで打撲したり切傷してしまいます。

浴槽の床やタイルは滑り止めのマットをひくなどして、滑らないようにしておきましょう。



3. いつも子どものいる位置を確認しましょう。

ジャンプしたり、走ったり、三輪車をこいだり、お母さんがおしゃべりに夢中になっているわずかなすきに子どもは思いがけないところに移動します。ソファからジャンプして飛び降りてテーブルにぶつかったり、走って遊んでいてドアや柱にあたったり、危険な遊び方を始めたらきちんと指導しましょう。



外遊びをするときは、子どもは思いがけないところに移動するので、注意しましょう。子どもの行動をよく観察して、安全に遊べる環境を作りましょう。

4. すべり台やブランコの安全な乗りかたを教えましょう。

すべり台で前を滑っている友達を後ろから押ししたり、ブランコに立ち乗りをしていて転落し、戻ってきたブランコにあたり、子どもは決まった遊び方では物足りず無理なことをしようとしています。安全に作られている遊具でも遊び方を誤れば事故の引き金となり、思わぬけがを負ってしまいます。



遊具の安全な遊び方を教えましょう。
遊びのルールを決めて守らせるようにしましょう。

5. ベランダや窓の側に踏み台になるものは置かない。

ベランダや窓の向こう側の景色に子どもは興味があります。子どもの好奇心をくすぐる場所であるのと合わせて、転落したときの被害の大きさも忘れてはなりません。お母さんがベランダから下に見えると、身を乗り出し、高い階にあるベランダからの転落事故は死亡や重傷などの生命にかかわる事故につながります。

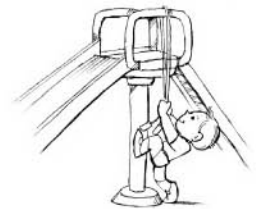


ベランダには新聞の束、ビール瓶のケース、大きなクーラーボックス、高さのある植木鉢など、踏み台になるものは置かないようにしましょう。

子どもがのぞきこめる窓には安全柵つけ、ベッドやソファ、椅子やテーブルなど子どもの這い上がれる物は窓のそばには置かないようにしましょう。

6. おもちゃで遊んでいるとき、危険なことをしていないか確認しましょう。

おもちゃを持って遊具の高いところから飛び降りたり、砂場遊びのシャベルで打ち合ったり、縄跳びや紐をすべり台やジャングルジムにかけて遊んだり、子どもは大人が思いがけないような遊びを見つけます。子どもの遊んでいるおもちゃや遊具環境、遊び方について大人が常に確認する必要があります。子どものおもちゃの大部分は安全に設計されていますが、子どもは本来の遊び方で遊ぶとは限らないので常におもちゃの安全を点検しておきましょう。



子どもの年齢や能力にあった遊具を選び、遊び方のルールを身につかせましょう。

7. 車のドアを閉めるとき、子どもの指をはさまないか確認をしましょう。

車のドアを閉めるとき、子どもの手があるのに気づかず閉めてしまうと、車のドアは重いので軟らかい子どもの指は重傷な傷を負ってしまいます。

車のドアは子どもが開けられないようにドアロックしておき、パワーウィンドーを閉めるときは窓から顔や手が出ていないか確認してから行いましょう。



また、自転車に乗せていて後輪に足をはさむ事故も起こっていますので、子どもを自転車と一緒に乗せるときは、足が巻き込まれないように、ドレスガードのついたものを選びましょう。

8. 自動車に乗るときは必ずチャイルドシートを使用しましょう。

子どもはなかなかじっと座っていません。チャイルドシートに嫌がって座らないと、使用しないで車に乗せてしまいがちになりますが、スピードを出していなくても衝突による力は予想以上に大きく、子どもを死亡させたりひどく傷つけてしまいます。走行中子どもに車内の装置を触らせないようにするためにもチャイルドシートに座らせ、シートベルトをしっかり締めましょう。

